



# 近畿支部会報2016年8月号

暑い日が続きますが、皆様、いかがお過ごしですか。テレビでオリンピック鑑賞でしょうか。オリンピックでの日本勢の活躍、その凄い技、集中力、持久力に驚嘆です。

近畿支部では、モンゴルとの交流キャンプも楽しいうちに終わりました。この事については後ほど報告集を出す予定です。又、三井寺金堂で開催された「平和を願う子供たちの作品展」には、日本モンゴル障がい児交流会を通じて、モンゴルの子供たちの絵画 28 点が展示され、近畿支部例会として、鑑賞してきました。暑い中ですが、トラベラーの来訪も多いです。

いろんな活動を通じて、サーバスの縁をより豊かに膨らませていければ嬉しいです。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1.例会報告	和泉市	A.K
2.トラベラー受入れ報告	茶目っ気たっぷりのお二人さん	交野市 S.S
	イタリアからのトラベラー	交野市 S.S
	道頓堀でデイホスト	八尾市 I.M
3.会員交流「北から南から」	「第 11 回平和を願う子供たちの作品展」に寄せて	
	沖村舞葉さん	京都市 K.S
	平野喜三さん	京都市 H.T
4.お知らせとお願い	支部長	

## 1.例会報告

和泉市 A.K

日時：2016年8月14日(日)

場所：滋賀県 三井寺

参加者：サーバス近畿支部会員7名 サーバス入会希望者1名

日本モンゴル障がい児交流会会員1名 計9名

お盆と重なったため、参加者が少なかったですが、三井寺での作品展に合わせて例会を行いました。お天気も良く、お盆だったためか、車で京都から大津への移動は、渋滞していました。山科の峠も時間が

かかり、集合場所JR大津駅に着いたのは、11時10分でした。会員3名の車に分乗して、昼食会場(三井寺門前のレストラン風月)へ行きました。メニューは、そば風月(冷)・松花堂弁当(関伽井) 1620円(税込)、あっさりとしていて、お腹にやさしい味でした。落ち着いた部屋で、先日のモンゴルに行ったメンバーが6名もいたため、モンゴルとの、今回の交流会の様子、昨年の交流会、C君親子の事等を、A.Tの作成途中のモンゴルのアルバムを見ながら、話をしました。

入会希望のOさんと合流して、三井寺金堂へ「平和を願う子どもたちの作品展」を見るために移動しました。Wさんのお力添えで、駐車料金・三井寺の入山料は招待葉書をもらい無料にいただきました



した。この作品展には日本モンゴル障がい児交流会が仲立ちをしたモンゴルの子供たちの作品が展示されていました。絵画展のきっかけは沖村舞葉さんが、シベリアから脱走して奇跡的に日本にたどり着いた平野喜三さん（1920～2011）に出会い、平和の尊さを実感され始められたそうです。沖村さんより平野さんの体験を冊子・紙芝居にして、地道な平和運動をされているお話を聞きました。ひとりひとり、はばたく折り鶴をいただきました。

観音堂に移動する途中、急に雨が降ってきました。止みそうにもなく、雷もなってきたため、仕方なく茶店の軒先の椅子を借りて雨宿りをしました。お店の方に、お茶を出していただき、ほっとしました。H.TさんがOさんにサーバスの入会のための面接をしました。やっと、小降りになり、お店の方にお礼を言って、駐車場に向かいました。



### 感想「モンゴルの子供たちの絵画を見て」

- ・色使いなどとても明るい絵が多く、大自然の中で生活をのびのびされている様子が伺えます。日本では太陽が赤いと思っていますが、モンゴルでは黄色なんですね。絵の中に地平線が描かれているのはうらやましいです。日本では海の向こうしか見えません。
- ・色使いがきれいですね。お日様やお月様、大きな木、きれいな花等、雄大な自然に恵まれているのでしょうか。人は皆微笑んでいます。とても素直な印象を受けます。モンゴルの子供たちも、日本の子供たちも、ともに平和の中で暮らせませすように。

・日本の子供たちとモンゴルの子供たち、住んでいる場所や文化が違えど、皆笑顔で毎日を過ごしているんだなと絵を見て感じました。絵を見て幸せな気持ちになりました。国が違うだけで分かり合うことができない、争いが世界で起きたりしています。それは一人ひとりの知識や理解が足りないからだと思います。どんな国の人でも理解しあえると思います。

- ・子供たちの心にある家族、幸せが裏切られる事のない世界を残す努力を痛感しました。

## 2. トラベラー受入れ報告

### 茶目っ気たっぷりのお二人さん

交野市 S.S

アメリカのフロリダから Ms. M と Ms. L が来られました。6月19日は10時ごろ JR 河内岩船駅に迎えに行きました。早い到着だなと思っていたら勘違いされたらしく1泊の滞在でした。

M は6か月ベトナム、カンボジア、台湾、シンガポールなどを回られて、日本へ来られました。あまりの長い旅にびっくりしました。アイパットの写真を見ながら話してくれました。

L とは大阪で合流したようです。二人は家が近所のお友達だそうです。二人とも明るく茶目っ気があり楽しい人たちでした。私もこんな旅がしたくなりました。



### イタリアからのトラベラー

交野市 S.S

イタリアから Ms. T が来られました。当初、2日の受け入れが7月14-19日の6日になってしまいました。

1 日目は京都の K さんが「14 日なら祇園祭案内できるよ」と言われたので、案内して頂くことにしました。近くに住みながら私も行ったことがなかったのでいい機会になりました。



2 日目は前日の疲れでゆっくりして、近所を散策しました。

3 日目は近所のお年寄りと食事会をしました。近所の人たちも楽しんでおられました。

4 日目は奈良公園へ、2 万歩以上二人で歩きました。

5 日目は生駒の美術館へ。

6 日目は二人でカレーを作って、夜バスで九州へ行くのでバスターミナルまで送りました。

彼女は日本の生活を楽しむタイプのように私もゆったり、共に生活したという感じでした。でも、サーバスって何だろうって考えてしまいました。一番感じたことは、日本は受け入れ会員が少ないということです。

### 道頓堀でデイホスト

八尾市

I.M

7 月 26 日にスペイン人の K さんからメールでデイホストを依頼されました。

7 月 29 日に大阪の道頓堀界隈を案内しました。彼女は観光名所より、日本人の生活（料理・食べ物）に関心があるという事で、最初、大阪の台所と言われる黒門市場へ行きました。魚屋さん、八百屋さん等を見て回りました。その後、千日前の道具屋筋へ行きました。調理器具や瀬戸物の食器等より、お寿司や魚、果物等の、本物そっくりに作ってあるマグネットが面白い様でした。そして観光客定番のグリコの電光掲示板、かに道楽の動く看板、食い倒れ人形等を見物しました。彼女が特に興味を惹かれたのは、パチンコ屋さんとゲームセンターでした。多くの人が、大騒音の中で一心にゲームをしている光景に興味深々でした。

コーヒータイムの時に、色々お話をしました。彼女は大学を卒業して、就職する迄の期間に日本に来たという事です。最初は二週間の予定が、日本が気に入って、2ヶ月滞在して毎日あちこち出かけて楽しんでいるとの事です。昨日は堺市の大仙公園の古墳、千利休、与謝野晶子の記念館を訪れたそうです。観光客が余り行かない所を訪問されて、そういう所に興味があるという事でした。陽のあるうちにサーバスホスト宅に戻るという事で、5時頃に別れました。とてもチャーミングな女性でした。

## 3. 会員交流—北から南から—

### 「第 11 回平和を願う子供たちの作品展」に寄せて

作品展をするきっかけになったお二人を紹介します。

沖村舞葉さん

京都市 K.S

三井寺の金堂に入ると展示されている絵画が目飛び込んできました。その絵に囲まれて沖村さんが自作の紙芝居をなさっていて、私たちもその聞き手に加えていただきました。まず平野さんの紹介がありました。彼は広島出身で徴兵により陸軍に配属されました。戦後シベリアの捕虜収容所へ送られましたが、脱走して日本にたどり着きました。満州の奥地で連れて帰ってと泣いた少女に出会ったそうです。

自分の体力も落ちており、迎えに来るからと言って残してきたことがとても胸の痛むことだったようです。

沖村さんは長く戦争を阻止する者として活躍されました。また、満州からの引揚者は向こうでは日本人といわれ、帰国後は中国人といわれて、差別されてきた事も話されました。そして「金の柄杓になった子供たち」という自作の紙芝居の始まりとなりました。

満州事変の後、日本は満州国を興し沢山の人が海を渡りましたが、終戦後、満州国境警備軍はいち早く本土に帰りましたが、兵隊と開拓団は置き去りにされました。彼らはパニック状態になりながらも、日本を目指して線路伝いに歩きました。しかし、冬が来て青酸カリを服用して自決しました。この時、子供達には飲ませなかったので生き残りましたが、腸チフスの流行もあり、厳しい状況でした。その時お肉のスープとおかゆを配ってくれるおじさんがいて、子供たちは空き缶を容器にして配給を受けました。配給の時の柄杓が金にみえました。しかし、栄養が足りず、腸チフスに耐えられず下痢が続きます。僕たちはもう日本には帰れそうにもありません。だから、空に昇り金の柄杓になって皆さんを守りますと書かれています。

そう読んでくださった沖村さんは目をうるませ、泣き声になっておられました。



### 平野喜三さん

京都市 H.T

「平野さんの平和つくりを語り継ぐ会」が編集発行されている冊子「なんで？ どうして？ 誰がこんなことを！」より平野さんを紹介します。

戦争が終わった昭和20年8月15日、私は満州国新京関東軍司令部におりました。日本が負け、満州国が露と消え、満豪開拓団の女と子供と年寄りが右往左往する、日本の軍隊は逃げる、そこに始まった混乱の中におりました。それから次の年の8月6日原爆投下1年目の広島に降り立つまでの1年間は、88年生きてきた全ての人生の年月にも比べられない重い長い毎日で、昼夜問わず死と直面して生きる数奇な1年でありました。

このことを話さなければと思いはじめたのは、5年前、戦争の様々な情報を幻想だ、捏造だと報道し、過小に報道し、戦闘での死を美化する、そんな風潮に気がついたのです。「本当にあったのだ。私は見た。知っている。」と叫ばずにはいられない心境になりました。本当にした事や、あった事は消せません。消そうとするのは、やまし思いがあるからです。そのやましさを見抜き、歴史の真実を知らねばなりません。しっかり見なければなりません。

次に戦争は「自然に起こるもの」ではなく、「戦争を起こそうとする者」と「戦争許す者」があって成り立つと知りました。当時国民8000万人のほとんどが、お国のためと協力したのです。今知らず知らずに「戦争を許す者」になっていませんか。歴史に学ばず、私は知らなかったで通そうとする人は、もうほとんど「戦争を許す者」になっているのではないのでしょうか。

## 4. お知らせとお願い

支部長

\* 次の例会は既にご案内していますように、9月18日（日）お昼を挟んで茨木市のかごの屋 茨木春日店で行います。ご都合をお付け下さり、ご参加下さいますよう、宜しくお願いします。

\* 2016 年度サーバス年会費（一般3000円 学生2000円 休会者B1500円）をまだお払い頂いていない方は、次の口座へ宜しくお願いします。

口座番号00990-6-33645 加入者名 日本サーバス近畿支部 以上